

社会と歯科医療・チーム医療（大学間連携 IT 教育）（3 年）

コーディネーター：補綴・インプラント学講座（補綴・インプラント学分野） 近藤尚知教授
 口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 佐藤健一教授

第 3 学年 後期

後期

講義
9 時間

演習
1.5 時間

教育成果（アウトカム）

我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有する患者が、歯科を受診する率が高まっている。また一般医科病棟でも、当該の病気に加えて、口腔機能管理の重要性が増している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に呼吸器感染症の予防や摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔ケア等の重要性が高まっている。

そこで国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を e-Learning（三大学連携 IT 教育システム）を通して身につける。（ディプロマ・ポリシー：1、3、4、5）

事前学修内容及び事前学習時間（30 分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を参考にして、e-Learning（三大学連携 IT 教育システム）の事前学習課題（予習）を行うこと。各授業に対する事前学習の時間は最低 30 分を要する。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10 月 2 日（金） 1 限	佐藤健一教授 （歯科麻酔学分野） 近藤尚知教授 （補綴・インプラント学分野）	オリエンテーション 三大学連携 IT 教育の目的、使用設備について理解する。	1. 三大学連携 IT 教育で学ぶ目標を説明することができる。 2. IT システムに接続できる。 3. IT システムを利用できる。 4. PC を用いて必要な情報を得ることができる。 5. 電子ポートフォリオを作成することができる。 [A-5-1)、A-7-1)-③、E-5-1)-①②]
10 月 2 日（金） 2 限	岸光男教授 （予防歯科学分野）	高齢社会と歯科医療 1 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。	1. 高齢社会について説明することができる。 2. 高齢社会と歯科医療について概説することができる。 3. 高齢者に多く見られる基礎疾患について列挙することができる。 [A-5-1)、A-7-1)-③、E-5-1)-①②]
10 月 2 日（金） 3 限	村井治助教 （歯周療法学分野） 須和部京介 （非常勤講師）	高齢社会とチーム医療 1 脳梗塞を合併した歯科患者を通して医療・歯科医療の仕組みと連携を学ぶ。	1. 脳梗塞発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説することができる。 2. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明することができる。 [A-5-1)、A-7-1)-③、E-5-1)-①②]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月2日(金) 4限	村井治助教 (歯周療法学分野) 須和部京介 (非常勤講師)	高齢社会とチーム医療 2 脳梗塞を合併した歯科患者を通して歯科が担う役割を学ぶ。	1. 脳梗塞の症状と口腔の機能に対する影響を説明することができる。 2. 障害を持つ患者の口腔ケアの目的と方法を説明することができる。 [A-5-1)、A-7-1)-③、E-5-1)-①②]
10月23日(金) 1限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学分野)	高齢社会と歯科医療 2 高齢者の身体的、心理的特徴を理解し、医療面接時の注意点について学ぶ。	1. 医療面接の目的と方法を説明することができる。 2. 主訴、既往歴、現病歴の定義を説明することができる。 3. 医療情報の収集法を説明することができる。 4. 基礎疾患を有する高齢者での医療面接での注意点を列挙することができる。 5. SOAP について説明することができる。 [A-5-1)、A-7-1)-③、E-5-1)-①②]
10月23日(金) 2限	小林琢也教授 (摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野) 熊谷章子准教授 (法歯学・災害口腔医学分野)	高齢者の口腔疾患 高齢者に多く見られる口腔疾患（特に口腔乾燥症）について学ぶ。	1. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明することができる。 2. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明することができる。 3. 口腔乾燥症と基礎疾患との関連について説明することができる。 [A-5-1)、A-7-1)-③、E-5-1)-①②]
10月23日(金) 3限	熊谷章子准教授 (法歯学・災害口腔医学分野) 小林琢也教授 (摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野)	高齢者の口腔疾患 高齢者に多く見られる口腔疾患（特に口腔乾燥症）の口腔診察法と検査について学ぶ。	1. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施することができる。 2. 検査の結果を評価することができる。 3. 異常の原因や原疾患を概説することができる。 [E-5-1)-③]
10月23日(金) 4限	近藤尚知教授 (補綴・インプラント学講座)	自主学習 (出席確認なし)	

成績評価方法

レポート (60%) ポートフォリオ・e-Learning (40%)